

す。賤子しずこは、本国で発表されてから、わずか四年後にこれを日本に紹介しょうかいしたのです。明治の初めとしては、めずらしい早さで、賤子の教養きょうようの広さがわかりま
す。

文章は、母から子に語りかけるような話しことばで書かれています。そのころの文章は、文語体ぶんごたいといって、話しことばとは全くちがった昔ふうの文章で書くのがふつうでした。賤子も、初めは文語体で書いていたのですが、文語体ではどうしても自分のほんとうの気持ちをあらわすことができませぬ。英語の得意とくな賤子しずこは、自分の気持ちを、英語であらわすことはできますが、日本語の文語体で書いてみると、何かものたりなくて満足まんぞくできません。

英語を日本語になおすことは、たいへんなことです。考え方や習慣しゅうかんのちがう外国人の作品を、日本人がわかるように書かなければなりません。幼いときから外国の人といっしょに生活して、英語で育つた賤子にとって、外国人の心を